

東日本大震災による津波の被害が大きかった宮城県南部の沿岸地域で屋外型レジャー・観光施設の開業が相次いでいる。19年4月には巨理町にマリンスポーツ施設「B&G海洋センター」が、21年4月には仙台市若林区に体験型農園「JRフルーツパークあらはま」がオープンしたほか、特に目立った動きを見ているのが仙台市の南に隣接する名取市の閉上（ゆりあげ）地区である。

全国有数の赤貝の産地としても知られる閉上地区は、古くから港町として栄えてきたが、東日本大震災の際、8mを超える津波がこの地域を襲った。沿岸から1km以内の木造住宅の大半が流失し、多くの方が亡くなるなど甚大な被害を受けた閉上地区は、その後、かさ上げ工事を伴う現



④「ゆりあげ港朝市」。撮影日は雨だったが、にぎやかだった  
⑤名取市閉上に立つ慰霊碑「芽生えの塔」。高さはこの地を襲った津波に合わせて8・4m



一般財団法人日本不動産研究所  
**ニューノーマル最前線**  
不動産の「変」と「不変」  
第18回 宮城県名取市

地再建型の復興が進められてきた。14年には震災で一時中断していた「ゆりあげ港朝市」

# 行動変容受け、活況見せる

復興を契機とした屋外型レジャー・観光施設

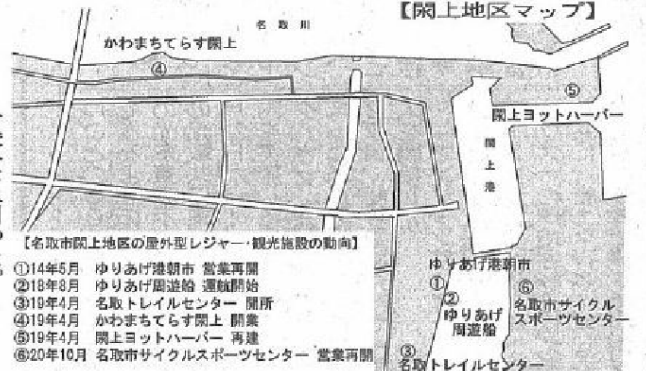
が再開し、18年には貞山運河一つには、コロナ禍を巡る「ゆりあげ周遊船」の運営が開始された。19年には青森県八戸市から福島県相馬市までをつなぐ「みちのく潮風トレイル」の拠点「名取トレイルセンター」やセーリングの拠点「閉上ヨットハーバー」のほか、名取川沿いの堤防に商業施設「かわまちてらす閉上」が立て続けにオープンした。更に、20年10月には自転車レクリエーション施設のほか、スケート場等を備える「名取市サイクルスポーツセンター」が再建された。これらの屋外型レジャー・観光施設は、コロナ下において「3密」を避けようとする動きから、ゴルフやキャンプ、サイクリング等の屋外型レジャーの需要が上昇し、観光地についても、大規模公園や景勝地等の屋外型の観光施設の

でも比較的にぎわいを見せており、外出自粛要請等を受けて利用客の一時的な減少はあったものの、前述の名取市サイクルスポーツセンターでは、オープン8カ月後の今年5月には早くも利用者が10万人を超えるなど人気は堅調で、閉上地区に新たなにぎわいを生み出している。

## 余暇の過ごし方に変化

屋外型レジャー・観光施設の人気が高まっている背景の

【閉上地区マップ】



入込数を上回った。

東日本大震災から10年。津波被害の大きかった沿岸地域に相次いで開業した屋外型レジャー・観光施設は、見事ににぎわいを創出する場として再出発を成し遂げている。そして、このコロナ下における人々の行動変容を受けてもなお訪れる人を魅了し続け、人と人とのコミュニティを形成する空間としてその存在意義を高めている。外部的な要因により不動産の活用方法が変わるうとも、人と人をつなぐことができる屋外型施設という空間は、きっとこれからも人々に愛され続けるだろう。（東北支社／不動産鑑定士・吉田弘）